

第三者評価結果の公表事項(乳児院)

①第三者評価機関名

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

S2021064、SK2021127

③施設の情報

名称：乳幼児ホームまりあ	種別：乳児院
代表者氏名：古川 健次	定員（利用人数）： 20名（16名）
所在地：岐阜市長良森町1丁目11番地	
TEL：（058）231-2528	ホームページ：http://maria2000.jp/
【施設の概要】	
開設年月日 平成12年 4月 1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人日本児童育成園	
職員数	常勤職員： 42名 非常勤職員 7名
有資格 職員数	保育士 31名 医師 1名 看護師 6名
	栄養士 1名 里親・家庭支援専門相談員 各2名
	個別対応職員 1名 心理療法担当職員 1名
施設・設備 の概要	（居室数）乳児室 1室 （設備等）事務室・医務室・会議室
	幼児室 1室 相談室・食堂・浴室・便所等

④理念・基本方針

【理念】

- ①悩み、苦しむ人への援助を惜しまない人間愛
- ②喜ぶものと共に喜び、悲しむものと共に悲しむ豊かな感性

【基本方針】

1. 「施設の主人公は子どもたち」に立脚した運営
2. 児童養護施設、家庭支援センターと密に連携した運営
3. アドバイザーシステムを取り入れた運営
4. 地域に密着した、地域に開かれた施設運営

⑤施設の特徴的な取組

・長い歴史を持ち社会的養護の中核的存在である当法人の一翼を担う乳児院として、ま

た時代の変革の中で、果敢に新たな取組を行っている気鋭の施設である。

- ・ 当院の歴史は、明治 28 年五十嵐喜広牧師による古川町での飛驒育児院の創設に始まる。その後当地に移転し、濃飛育児院、日本育児院、日本児童育成園と改称を重ね現在に至っている。一方平成 11 年の県立乳児院の閉鎖に伴い、翌 12 年に乳幼児ホーム「まりあ」が開設され、法人の一翼を担うとともに独自の進展を図り現在に至っている。

- ・ 今日、乳児院の在り方について様々な議論がなされている、その中枢を担う指針は、「多機能化」「高機能化」そして乳児院の「乳幼児総合支援センター化」であろう。一方形態的には「小規模化」「分散化」が提示されており、その狭間で現実的な対応に苦慮しながらも果敢に取り組みがなされている。

- ・ 内的には、グループ化・ユニット化という言葉で言い表されるような小規模化を実現し、家庭的な機能をより濃厚にするとともに、リーダーを中心とした組織化により、点を線でつなぎ面での展開を現出している。

- ・ 外においては、妊産婦支援事業「にんしん SOS バトンぎふ」の活躍による、妊娠・出産・育児へとつづく今日的課題への取り組みがあり、分園型の小規模グループケアにおけるより子どもに密着し、安定的な生活環境の創出が試みられている。

- ・ 他にも独自性のある、また乳幼児に密着し、職員が生き生きと取り組める環境の創出が顕著であり、範たる歩みを続けている施設である。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（和暦）	令和 6 年 4 月 30 日（契約日） ～ 令和 7 年 2 月 27 日（評価結果確定日）
前回の受審時期 （評価結果確定年度・和暦）	令和 3 年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

- ・ 養育・支援体制はきめ細かであり、問題点のチェックあるいは向上に向けた取り組みができるよう、態勢が整えられている。当院は、これから経験を積み重ね、より高い専門家を目指す若い職員も多い。そうした職員を育てまた切磋琢磨していけるよう、小グループに分けられそれぞれにリーダーが存在し、数グループの集合体ユニットのユニットリーダー、全体を統括する総括ユニットリーダーが取り仕切る仕組みとなっている。こうした仕組みが院長を支え、養育の質を高める大きな働きを担っていると考えられる。

- ・ 福祉人材の確保については独自のスタンスで様々な試行がなされている。専門職について、心理療法担当職員を現行の 1 名より 2 名に、また看護師も増やすという方針は、利用する子どもの家庭等の状況を勘案する現場からの強い意向に沿ったものである。さらに各グループに夜勤専門職員を置き、女性の多い職場の働きやすさを希求している。一方「調理勤務からの育成」のスローガンで、分園型の小規模グループをより家庭的ならしめるため、食事まで全てそこで賄えるよう調理師を配置、将来的に養

育が担当できるよう育てていく計画を立て実行を検討し始めている。一方障がい者雇用についても、独自の視点での試みの実現を目指し計画中である。

- ・「赤ちゃんのいのち輝いて」を理念に掲げ、赤ちゃんが健康で誰からも愛されるような子に育てようと職員が一丸となり、乳児から大切に育てて下さっていることがわかる。現代の若いお母さんが妊娠初期から掲げる不安を解消出来るようにリアンという施設を開設、多くの方が気軽に悩みを共有でき、いつでも親子で遊びに帰ってこれるふるさととなることを目指し努力されている。
- ・各種マニュアルの整備がされており、定期的な見直しや細分化された会議の実施により職員や保護者の意向も反映されるようにしていることから、子どもも保護者も職員も守ろうとする施設の方針がわかる。
- ・子どもに対して何が一番幸せに成長していくのかを考え、担当制からグループ担当制に変えたり、家庭らしい雰囲気づくりとして調理、入浴など日々の生活を見直し、より良い環境作りを行っている。里親支援、家庭復帰後の支援など途切れることのない支援を行う努力がある。子どもにとって一番大切と思う職員の方の子どもに対する愛情が様々な話の中で感じられた。

◇改善を求められる点

- ・日々の努力を随所に感じましたが、小さい玩具は飲み込むと命に関わることもあるので、玩具の整理を工夫するなど見直しをお願いしたい。
- ・心理療法担当職員との連携がもう少し密にあると、より子どもの対応に深まりが出ると思われる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、養育支援体制のところで評価いただけたことで、今後もさらに日常を検証しながら必要に応じて見直しの継続を行い、職員も定期的に入れ替わるため、再度職員への周知をしていけたらと思います。

また、改善を必要とするところに関しては、速やかに改善を行えるところは行い、時間を要するところに関しては検討を重ねてまいりたいと考えます。

子どもたちの発達を促進する上で、できるだけ家庭的な環境に近づけるよう、日々、努力を続けていきたいと思えます。子どもたちがすこやかに成長できるように努力してまいります。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。